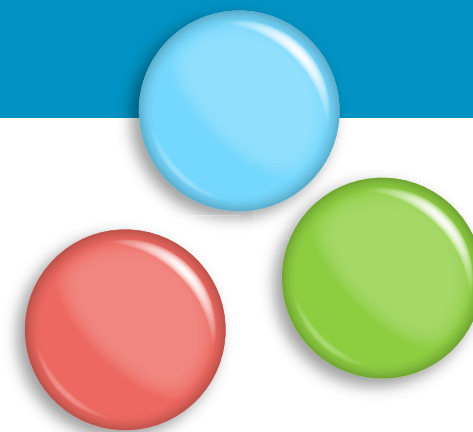


缶バッジ製作の質と効率を高めるために見直すべきポイントは？

# 自動缶バッジマシンの 有用性と選び方を解説



# はじめに



缶バッジは昔からある商品ですが、企業がノベルティとして配布する、ブランディング活動に利用するなど、その活用方法はさまざまです。

ここで課題となるのが、いかに高品質で不良品の少ない缶バッジ生産をしていくかという点です。多くの種類を品質のロスなく、迅速に生産する体制が必要ですが、生産性を高めようとするあまり、缶バッジの命であるデザイン面の美しさが損なわれるような不良品ばかり生産しては意味がありません。

缶バッジを生産する際に必要な缶バッジマシンには、手動式と自動式の2種類があります。

当Ebookでは、すでに缶バッジビジネスを展開している方だけではなく、これから缶バッジの生産を検討している方向けに、生産効率や品質を担保しやすい自動缶バッジマシンのメリットを解説します。

ぜひ、ご一読ください。

## もくじ

はじめに	01
こんなお悩みはありませんか	02
自動缶バッジマシンの具体的なメリット①	03
自動缶バッジマシンの具体的なメリット②	04
自動缶バッジマシンの具体的なメリット③	05
自動缶バッジマシンを選ぶ際の注意点	06
自動缶バッジマシンなら「バッジマンネット」	07
おわりに	08

# こんなお悩みありませんか？

## 缶バッジ事業を拡大させたい

と考えていても、現生産体制では質・生産量ともに不安がある。

## 缶バッジ製作のスピード（効率）と質、どちらも向上させたい

と考えていても、スピードを上げると不良品が増える、丁寧に作業すると納品数に間に合わないというジレンマを抱えている。そんな悩みを持つ企業も少なくないのではないでしょうか。



現体制のまま生産量を増やそうとすると、作業員には今以上に心身双方への負担がかかります。こうした状況では、作業員の負担を軽減しながら、缶バッジの生産量を上げていくのは難しく思えるでしょう。

## これらの課題をクリアするためには、現状の見直しが重要です

例えば、効率性が低く、仕上がりの精度にバラつきがしやすい手動マシンを使っているのではありませんか？

その場合、人的な努力や工夫だけでは効率化・精度向上の実現はかなり難しいといえます。高性能の自動缶バッジマシン導入が、解決のための画期的な有効策となります。

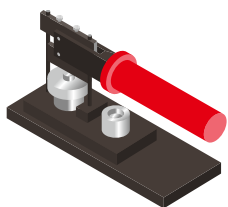
次ページからは、自動缶バッジマシンの導入をおすすめする理由やメリットを紹介します

# 自動缶バッジマシンの具体的なメリット 1 生産スピード



自動缶バッジマシンと手動缶バッジマシンを生産スピードで比較すると、その差は歴然です。

## 手動缶バッジマシンと自動缶バッジマシンの生産スピード



手 動

**150 ~ 250**  
個/h



自 動

**400 ~ 1,000**  
個/h

上記のデータでもわかるように、自動缶バッジマシンは手動缶バッジマシンの約3 ~ 4倍ものスピードで作業を進められます。

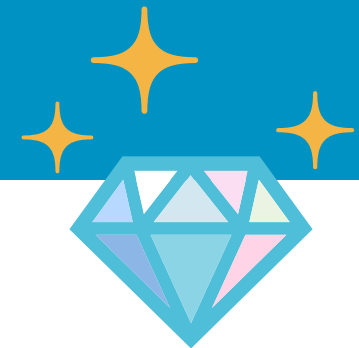
生産スピードを上げることで、大口案件や超短納期にも対応が可能になります。これまでよりも大きな事業やキャンペーンなどへの受注を増やせるでしょう。確実な生産量を担保できれば、企業としての信頼性も強化され、利益向上への良いサイクルが確立します。

缶バッジは、よほど珍しいデザインでもなければ、個々の高単価は期待できません。そのため、個数を量産できることが事業者としての強みになります。安定した生産量を確保できれば、さまざまな分野へ活用範囲が広がることも期待できます。

自動缶バッジマシンでも、ある程度は個人の熟練度によって生産スピードが上下することはあります。しかし手動缶バッジマシンに比べ、作業の難易度が低いため、一定の生産スピードを見込みやすいのが大きなメリットです。

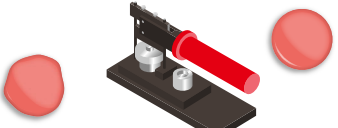
熟練者を育成したり、作業人数を増員したりすることなく、現状の作業人数で作業効率を向上させることが十分に可能です。

## 自動缶バッジマシンの具体的なメリット 2 生産品質



自動缶バッジマシンと手動缶バッジマシンを、仕上がりの品質と作業の難易度について比較してみましょう。

### 完成品の品質について



**手 動**

作業者により  
異なる



**自 動**

作業者にかかわらず  
同一品質

自動缶バッジマシンはプレス圧が一定のため、使用者が代わっても同じ品質の缶バッジを継続的に生産可能です。一方、手動缶バッジマシンでは、マシン使用者の力加減に依存するため、プレスが弱すぎたり、強すぎたりして製作に失敗する可能性があります。

缶バッジの場合、1個あたりのコストは決して高いものではありません。しかし、たとえ少額であっても、大量に製造するときには、失敗分の損失が収益に大きく響いてきます。完成品の品質を高めることは、コスト面の効率を考える際にも避けては通れない要素なのです。

### 作業の難易度について



**手 動**

プレスの力加減や  
方向の調整などが必要



**自 動**

パーツを置くだけ

手動缶バッジマシンの場合、パーツを置いた後に自分の力を使ってプレスする必要があります。一方、自動缶バッジマシンでは基本的にはパーツを置くだけで、作業者の力を必要としません。作業者はデザインの向きやズレ、巻き込みのズレがないかどうかに集中できます。また、生産スピードやプレス圧も調整できるため、作業者の熟練度や使用する紙・フィルムに細かく合わせることが可能です。特にデザインを印刷する紙は、缶バッジ事業者それぞれで最適なものがあり、こだわりのポイントでもあります。

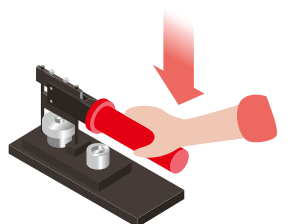

手動缶バッジマシンの場合には、こうした調整に失敗してロスが発生するリスクが高いのです。また、手動缶バッジマシンで対応できるフィルムの厚さは0.1～0.13mm程度と狭く、厚みのあるフィルムだと外れなくなったり、故障の原因となったりする場合があります。

自動缶バッジマシンは、このような問題への対応も含め、いろいろな製作方法に対応しており、常に最適な缶バッジをつくることが可能です。



自動缶バッジマシンと手動缶バッジマシンを、作業負担の観点から比較します。

### 作業者の負担（体力・時間）について

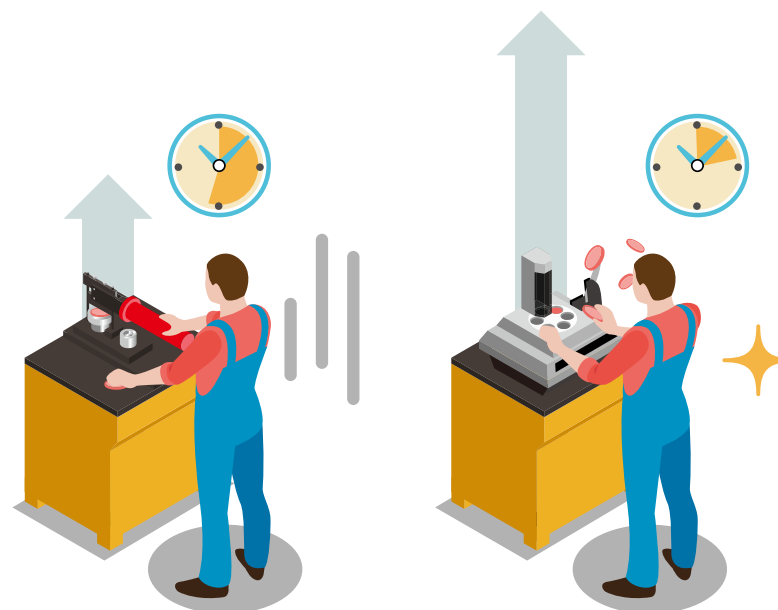
 <p><b>手 動</b></p> <p>プレスによる 身体的負担があり 長時間の作業は難しい</p>	 <p><b>自 動</b></p> <p>パーツを 置くだけでOK</p>
---	--

一方で、自動缶バッジマシンは、作業者はパーツを置くだけで、あとは自動的にプレスがかかります。完成品の排出もマシンに任せられます。作業動作が少なくすみ、身体的・精神的な負担の大幅な軽減を図ることが可能です。

また、1個あたりの作業時間が大幅に短縮され、長時間の作業も可能となるため、ひとりあたりの生産性が各段に高まります。

手動缶バッジマシンはプレスをする際に、相応の力が必要です。作業する人に身体的負担がかかるため、長時間・大量の生産を一定品質で行うのは難しいと考えられます。

また、力加減にも常に調節が必要とされ、弱すぎるとバッジが合体しないといったリスクもあります。常に同じ強さでの慎重な動作が求められるため、作業中は「ゆっくりと確実に」をくり返さなければなりません。手動で缶バッジを大量に製作する場合には、作業者の心身への大きな負担が継続します。



# 自動缶バッジマシンを選ぶ際の注意点

自動缶バッジマシンの購入前に確認すべき主なポイントとして、以下の4つがあります。

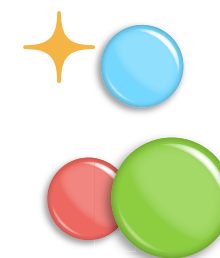
## 1.マシンの不良率

自動缶バッジマシンでも、強度や機能性によっては大量生産に不安がないとは言い切れません。事業者向けに販売されている、プロ仕様でかつ不良率が低い自動缶バッジマシンを選択することが大切です。



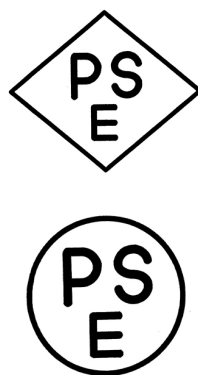
## 2.生産品質の安定性

自動缶バッジマシンの持ち味である均一性は、必要不可欠な条件です。単に生産スピードが速いだけでは、優れた自動缶バッジマシンとはいえません。紙の厚さやフィルム印刷などの条件も考慮し、さまざまなタイプの缶バッジを美しく仕上げられる自動缶バッジマシンが理想的であるといえます。



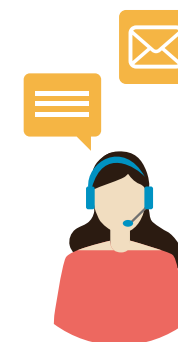
## 3.マシンの安全性 (PSEマークの取得)

PSEマークとは、日本国内における電気用品の安全性確保を目的とした「電気用品安全法」の基準に適合する電化製品に付けられるマークです。PSEマークの取得には輸入・製造段階での届出が必要とされています。届出事業者は、基準に適合し、検査等を実施した電気用品について、PSEマークを付すことができます。安全性について確認ができないPSE非対応の自動缶バッジマシンは、作業時の事故につながる可能性があります。作業員の安全のために、PSEマークの有無を必ず事前に確認しましょう。



## 4.アフターサポートの有無や内容

いかに優れた自動缶バッジマシンであっても、機械である以上、稼働しているうちに不具合が発生することが想定されます。定期メンテナンスや修理が必要となった場合のメーカー側の対応窓口が明確であることを事前に確認しましょう。また、パーツ選びなど、製作上の不明点や疑問について相談を受け付ける体制があるかも重要です。導入前の段階から、マシン選びについての情報提供が充実していれば、自動缶バッジマシンを初めて使う場合も安心でしょう。





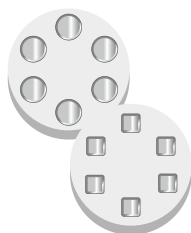
# 自動缶バッジマシンなら「バッジマンネット」

本場アメリカの高品質な商品と、缶バッジ製作にかかわるさまざまな情報を提供している、缶バッジマシン・パーツの専門店バッジマンネットの製品を紹介します。

バッジマンネットの自動缶バッジマシンは、アメリカ製ならではの高品質な金型や操作性の良さ、低コストでありながら精度の高い仕上がりが期待できるほか、以下の特徴を備えています。



## 一台で複数サイズに対応



一般的なアメリカ直輸入の自動缶バッジマシンは、生産するサイズごとにマシンを購入する必要がありますが、バッジマンネットの自動缶バッジマシンはターンテーブル(金型)が交換可能であるため、1台で複数のサイズに対応できます。

## 手厚いアフターサポート



バッジマンネットでは、販売する全マシンにシリアルナンバーを付与し、修理履歴なども管理しています。トラブルが起きた際のサポートや修理についても責任をもって対応します。

また、サイト内には缶バッジと缶バッジマシンに関する情報が充実しており、操作方法など基本的な情報を知りたいときにも便利です。

## PSEに対応



バッジマンネットの自動缶バッジマシンは、アメリカ製のマシンに独自の改修を施すことで、日本の電気用品安全法に基づく製品安全基準を満たした製品です(PSEマーク取得済み)。

アメリカのECサイトからバッジマンネットの自動缶バッジマシンと同じ型のマシンを購入することもできますが、そうした製品はPSEマークが付いていません。またアフターサポートするメーカーも国内にはいないため、従業員の安全性や長期的な使用を考えるのであれば避けるべきでしょう。



さらに、製作した数をカウントできるパートカウンターなど、大量の缶バッジ製作時を想定した便利機能も搭載しています。

安全・安心・高機能でサポート体制も万全。総合的に見れば、バッジマンネットの自動缶バッジマシンは、事業成長のパートナーとして最適です。



# おわりに

缶バッジは、企業側にとっては汎用性の高い非常に優れた商材です。一方で、汎用的であるがゆえに、生産効率や品質要求に関しても考慮する必要があります。

缶バッジ生産で重要なのは、製造する際に使用する缶バッジマシンの性能と安全性です。紹介してきたように、自動缶バッジマシンは、手動缶バッジマシンに比べて多くの利点があります。ただし、なかには国内の安全基準（PSEマーク）を満たしておらず、安全性が保証されていない製品もあります。

PSEマークが付されていない場合、日本国内の運用における安全性は担保されません。信頼できる事業者とは、販売後も製品に責任を持ち、作業する人が確実かつ安全に缶バッジ製作を続けられる体制を整えている企業です。

缶バッジ事業の確実な効率化と高品質の維持を目指すのであれば、導入するマシンについて深い理解が必要です。また、導入・運用のしやすさだけでなく、安全に操作ができ、缶バッジ製作の効果が確実に上げられる選択をしていくことが重要です。



<https://www.badge-man.net>

お問い合わせ ▶